



2025-2026
国際ロータリーテーマ

よいことの
ために
手を取りあおう



フランチェスコ・アレツツォ



諫早西RC
ホームページ



Facebook



諫早西RC
掲示板



2025-2026年度 諫早西ロータリークラブテーマ

『ロータリアンとしての品格と誇りを持つ』

諫早西ロータリークラブ会長 吉田 健一郎

第1889例会 2025年 12 月 24 日例会記録 NO.21 天候 雨のち晴れ

【本 日】会員数 44名 出席 30名 欠席10名 出席率 75.00%
 【12/10】会員数 44名 出席 35名 欠席 5名 (MU 5名) 出席率 87.50%

会長の時間

本日はクリスマスという特別な日です。街ではサンタクロースが大忙しでしょうが、私たちロータリアンもこの上期半年間、忙しい日々を送ってまいりました。

思い返せば、7月の就任時「今年は気を引き締めてやろう。ネクタイを着用し、どっしり構えよう。」と思って取り組みました。ところが現実はどうだったでしょうか。毎月の理事会・委員会・行事・会長の時間。更に、「会長、ちょっとよろしいですか？」という言葉聞く回数が、人生で一番多い半年だった気がします。

会長になって解ったことがあります。“会長は一人で何でも決める役”ではなく、“皆さんに助けてもらう役”なんだということです。上期を振り返りますと、奉仕活動・親睦活動・例会運営とどれをとっても、委員長をはじめ、会員の皆さま一人ひとりのご協力があったからこそ成り立ったものばかりでした。特に印象的だったのは、「誰かが困ると、自然と誰かが動く」これが当クラブの強みだと、改めて感じました。

話は戻しまして、クリスマスというと「贈り物」「感謝」「分かち合い」そんな言葉が浮かびます。ロータリーも同じではないでしょうか。時間を出し合い、知恵を出し合い、時口まお金も出し合いながら、誰かのために行動する。それは決して派手なことではありませんが、誰かの心を温めていると、私は信じています。

さて、いよいよ下期の後半戦です。会長として竜頭蛇尾で終わらないよう、“働いて、働いて、働きます”。ここで皆さんにお願いがあります。どうか下期も、楽しむ気持ちを忘れずに、前向きに、ロータリー活動に参加していただければと思います。

最後になりますが、半年間、至らぬ会長を支えてくれた幹事をはじめ、全ての皆さまに心から感謝申し上げます。そして下期も、「ロータリーって、やっぱいいな」そう思える一年にしていきたいと思います。



吉田 健一郎 会長

会 長／吉田 健一郎 幹 事／友永 俊介 創立日／昭和60年2月20日 認証日／昭和60年3月5日
 例会場／平安閣 諫早サンプリエール(毎週水曜日) 〒854-0053 諫早市小川町71-1 TEL (0957) 24-3907
 事務局／諫早商工会議所内 〒854-0016 諫早市高城町5番10号 TEL (0957) 22-3323
 会報委員／辻 保行・久保 泰正・古賀 秀次・大町 誠
 HP/<https://isahaya-west.com> E-mail/info@isahaya-west.com

幹事報告

例会変更及び休会なし

【お知らせ】

※国際ロータリー日本事務局より

- ①「公共イメージニュース 2025年12月」
- ②「2026年 台北国際大会 RI 理事主催 親善朝食会のご案内」
日時：令和8年6月14日(日) 7:00～8:00
会場：圓山大飯店(グランドホテルタイペイ)12階
「大會廳(ザクランドボールルーム)」
会費：お一人様 12,000円
締切：令和8年2月27日(金)
- ③「財団室NEWS 2026年1月号」

※ガバナー事務所より

- ①「主要行事予定のお知らせ(2025-26年度下期～2027-28年度)」
- ②「地区職業奉仕WEBラーニング」参加者募集
日時：令和8年1月21日(水) 19:00～20:15
内容：2740地区パストガバナー収録による職業奉仕ビデオ視聴と勉強会
対象：職業奉仕委員長又は、職業奉仕の勉強をしたい方
締切：1月14日(水)

※ガバナーエレクト事務所より

- 「次年度地区大会 日程変更のご案内」
日時：令和8年11月7日(土)
地区大会記念晩餐会 於：長崎サンプリエール
懇親ゴルフ大会
日時：令和8年11月8日(日)
本会議 於：出島メッセ
懇親会 於：ホテルニュー長崎

委員会報告



永井 栄次 会員
『海外メーキャップツアー御案内』

スマイルボックス

- 吉田健一郎君：至らぬ会長でしたけど、皆様のご協力で半年間過ごせました。来年も宜しくお願いします。
- 高瀬 善久君：皆さんには今年一年お世話になりました。来年も宜しくお願いします。
- 清水 淳君：吉田会長、友永幹事、上期お疲れ様でした。下期も宜しくお願いします。
- 永井 栄次君：少し早いですが、本年も大変お世話になりました。皆様にとって実り多い一年となりますよう祈念して年末のご挨拶とさせていただきます。
- 塚原 浩三君：今年も私事で休会したり迷惑かけました。来年は良い年になりますように。
- 宮本 峻光君：この一年無事に過ごせそうです。来年も宜しく。今夜サンタきてくれるかな～？
- 浦江 芳征君：2025年もお世話になりました。2026年も皆様にとって、すばらしい年となりますよう宜しくお願いします。
- 日高 正朗君：いよいよ今年も最終例会となりました。来年は病気をしないようにします。皆さん、良いお年を!!
- 小野 秀喜君：一年間お世話になりました。
- 千住 良治君：久しぶりの例会出席となり、失礼いたしました。本年も大変お世話になりました。良い年末年始をお過ごし下さい。
- 辻本 善樹君：会長、幹事、会員の皆様、一年間お世話になりました。来年も宜しくお願いします。

本日の合計 (12/24)	累計額
¥47,000	¥565,000

2025～2026年度 ポリオ募金 累計額

12月分	累計
¥10,101	¥38,088

四つのテスト

言行はこれに照らしてから

1. 真実か どうか
2. みんなに公平か
3. 好意と友情を深めるか
4. みんなのためになるか どうか

【上期を振り返って】



吉田 健一郎 会長

会長就任の際、私は「品格と誇りをもとう」とテーマに掲げました。上期を振り返ると、この言葉通り例会や奉仕活動において、挨拶ひとつ、声掛けひとつでクラブの雰囲気が出てきているのを、皆さまの姿から学ばせて頂きました。このような自然体の気遣いで、品格ができていると思いますし、クラブとしての誇りも持てると思います。

一方で、反省点や課題も見えてきました。会員増強や情報発信、出席率、次世代への関わりなど、下期に向けてさらに工夫し、挑戦していくべき点も少なくありません。そして、私自身の「会長としての成長」もまだ道半ばです。

どうか下期も、引き続き温かく、時には厳しく、そして何より笑顔でご協力いただければ幸いです。



友永 俊介 幹事

皆さま、お疲れ様です。本年度幹事を務めております友永です。本日はクラブアッセンブリーにあたり、幹事として一言お話しさせていただきます。

まず、日頃よりクラブ運営にご理解とご協力をいただき、心より感謝申し上げます。例会運営、各委員会活動、奉仕活動への積極的なご参加により、当クラブは安定した運営ができております。今期のクラブテーマは「ロータリアンとしての品格と誇りを持とう」です。実を言いますと吉田会長がこのクラブテーマを考案された際になかなかプレッシャーのかかるテーマだなと。なぜなら幹事である私の品格が一番試されるのではないかと…と思った記憶がございます。

しかしこのテーマは、実はとてもこのクラブらしいテーマだとも感じています。と言いますのも、当クラブにはロータリーを本当に愛している方が多い。ただし — 考え方は実にバラバラでさまざまという事。例会後の雑談を聞いていても、「なるほど、そんな考え方もあるのか」と思うことがよくあります。それでも最終的には、なぜかちゃんと話がまとまる。これは、当クラブの大きな強みだと思っています。その“まとまり”を支えているのが、共通して持っているロータリーへの誇りではないでしょうか。幹事として日々感じるのは、品格や誇りというものは、決して声高に語るものではなく、行動の端々ににじみ出るものだということです。例えば、出欠のご連絡をきちんといただくこと。時間を守ること。連絡事項に目を通していただくこと。幹事としては、とてもありがたい行動です(笑)。こうした一つひとつが、「このクラブはきちんとしている」「このクラブには品格がある」と、内にも外にも伝わっていくのだと思います。

ロータリーは、意見が違っていい。考え方が違っていい。しかし、基本となる姿勢やルールは、皆で守る。ここにこそ、ロータリアンとしての誇りがあるというふうに認識しています。

幹事は、決して前に出る役職ではありません。むしろ、皆さまの協力がなければ何もできない立場です。だからこそ私は、この“まとまりの良さ”をさらに活かせるよう、丁寧で、分かりやすい運営を心がけていきたいと考えています。今後とも、ロータリーを愛する気持ちを大切にしながら、少しの厳しさ、少しの思いやりを持って、クラブ運営へのご協力をお願いいたします。

簡単ではございますが、私からの一言とさせていただきます。ありがとうございました。

職業訓練にとどまらない奉仕

2025-2026 年度 国際ロータリー (RI) 会長 フランチェスコ・アレツツォ

アメリカ・カリフォルニア州サリナス郊外の自動車修理工場では、若者たちがクラシックカーの修復技術を学んでいます。このプログラムで得られるのはスキルだけではありません。メンター制度を通じ、一部の若者にはギャングから足を洗い、有意義な仕事へ向かう新たな道筋が生まれています。研修を終えた若者は、資格と実務経験、そして希望を胸に旅立ちます。



1月の「職業奉仕月間」は、専門性を持つ人々が集い、「世界でよいこと」をする力をたたえる機会です。同時に、「高潔性」とは単に行動と発言が一致しているというだけでなく、私たちの一つ一つの行動に表れることを思い起こさせてくれます。

この自動車修理プログラムが成功したのも、高潔性に基づいて築かれたからです。カーメル・バイ・ザ・シー・ロータリークラブの会員は、「地域のニーズは分かっている」と決め付けず、まず耳を傾けました。すると、熟練整備士の不足と、職業訓練を受けていない若者が多いという課題が明らかになりました。技術習得だけでは不十分と判断した彼らは、カウンセリングや支援サービスを職業訓練と並行して提供する非営利団体と連携しました。

これは、「四つのテスト」の実践です。この四つの問いは他者を裁くためではなく、真に効果的で誠実な奉仕へと私たちを導く指針なのです。

ポリオ根絶への取り組みを思い返してみましょう。私たちは40年近く、世界の子どもたちに「この病気をなくす」と約束し続けてきました。数々の困難を前にしても歩みを止めず、今日まで前進してきました。この約束を守り抜く姿勢こそ、高潔性そのものです。

同じ高潔性が、職業奉仕の取り組みにも必要です。今後10年間で新興国では12億人が就労年齢に達しますが、見込まれる新規雇用は4億2,000万人分に過ぎません。長い間経済的な機会から取り残されてきた地域こそ、私たちの支援が求められているのです。

ただし、支援とは私たちの意見を押し付けることではありません。地域のニーズに耳を傾け、パートナーシップを築き、コミュニティが自ら持続できるプロジェクトを設計することが大切なのです。

皆さんは、人の人生を変え得る知識と専門性を備えています。どのような職業であれ、皆さんの専門性にロータリーの価値観が加わることで、持続的な変化が生まれます。問われているのは「自分に何か提供できるかどうか」ではなく、「自分のスキルをどう生かして奉仕するか」です。

この1月、クラブとして地域の職業的ニーズにどう応えられるか、改めて考えてみてください。誰かの人生を動かす力を持つスキルは何か。皆さんの人脈を生かして若者たちにどのような扉を開けることができるでしょうか。持続可能な雇用を生むには、どのようなパートナーシップが築けるか。

高潔性を道しるべに、「四つのテスト」と共に歩みましょう。そして、カリフォルニアの若者たち、さらには世界中で職業スキルを必要とする人々を思い、職業奉仕の意義を見つめ直しましょう。

私たちが持つ専門性を人類のために生かし、全ての行動に高潔性を込めていくことを、この月間で共にたたえ合いましょう。